

立憲民主党の参院選政策メインキャッチコピー

「物価高から、あなたを守り抜く」

7月20日投開票の参院選で勝利し、自公政権の息の根を止めよう！
青森選挙区では**福士ますみ**さんが現職と互角の闘いを展開中です



元気に青い森公園で第一声！
与野党逆転は青森の地から

滝沢氏、福士氏競り合う
投票先未定40%弱
本紙世論調査

7月3日公示、20日投開票予定の参院選について、東奥日報社は21、22の両日、JX通信社（東京）と共同で、県内有権者を対象に電話とインターネットによる世論調査を行った。本紙取材を加えて情勢を採った結果、本県選挙区（改選1）に立候補予定している5人のうち、自民党現職の滝沢求氏（66）と立憲民主党新人の福士ますみ氏（60）が他の3人を大きく引き離し、競り合う展開となっている。現時点で40%弱が投票先を決めておらず、情勢は流動的だ。

【「消費減税を」47・4%（3面）】

6/24 東奥日報

立憲民主党の **物価高対策** **あなたを守り抜く**

食卓おうえん 給付金 10000
すぐに **1人当たり 2万円給付**
※食料品消費税の半半分相当

食料品消費税 0%

収入を増やし 負担を減らす

企業利益を真っ先に **賃上げ** へ
中小企業が **賃上げ** できる環境づくり
希望すればみんな正社員に
医療・保育・幼児教育・介護・福祉・建設・交通運輸など **社会の基盤を支える人たちの処遇改善**
就職氷河期世代・現役世代・シングル世帯のための **サラリーマン減税・賃貸住宅支援**
学校給食・高校無償化の実現
農業者戸別所得補償制度をバージョンアップ
食卓の安心と農家の収入を守る **「食農支払」の創設**
将来の安心のための **年金の底上げ**

食料品消費税の%
・積みすぎ基金
・外為特会剰余金
・租税特別措置の見直し

2万円給付
・予備費、未使用基金
・所得税の増収分
※給付金を控除対象に含めて、高所得者を中心に給付の負担を軽減

財源
所収額 2.5兆円 5兆円/1年

給付付き 税額控除
40ℓ給油で **今より 1000円 安くなります。**
中低所得者にとっては 減税よりも 恩恵が大きい。

ガソリン・軽油価格の引き下げ 暫定税率を廃止
ガソリン 25円/ℓ 軽油 17円/ℓ 引き下げます。

赤字国債発行(借金)はやめん！ 将来世代への責任です。

むつ市議会第 264 回定例会 杉浦議員は 2 項目にわたり、市の政策を質しました

むつ市議会第 264 回定例会は 6 月 3～26 日の日程で開催されました。一般質問は 6 月 12,13,16 日の 3 日間開催され 15 名の議員が登壇しました。

杉浦弘樹議員は初日の 12 日に登壇し、(1)二ホンザル被害対策について、(2)西通地区在住の高校通学について、の 2 点について市の方針などを質しました。(1)では昨年度は前年度より被害件数、額とも減少しているがサルの行動領域に変化が認められ、大

畑地区が増加しているとのこと、今後の方針としては電子柵などの拡充、モンキードッグやデジタル技術の拡充、野猿監視員の待遇改善とともにスキルアップをめざすと回答しています。また、(2)では業者の要員不足などで西通地区スクールバスの減便などで不便になっていることは承知しており、当該保護者などへのアンケートを分析しながら効果的な対応により何とか改善したいとの回答を引出しました。

《一般質問に登壇した 15 名の議員の質問と答弁要旨・デリー東北紙より》

- ◇富岡直哉議員（陸奥未来） 下北地区統合校開設準備委での校舎の検討予定は。
▷阿部謙一教育長 10月に検討予定だが、施設整備の予算案に意見が反映できるタイムテーブルになっていない。早期に案を示し、地域と協議するよう県教委に求めている。
- ◇住吉年広議員（公明・自由） 認知機能セルフチェッカー導入の考えはあるか。
▷斎藤洋一健康福祉部長 高齢化で認知症の早期発見、早期治療の重要性が高まっている。気づきかけを提供する有効な手段なので、試験導入に向けて検討していく。
- ◇杉浦弘樹議員（無所属） 西通り地区在住の生徒の高校通学に対する支援の考えは。
▷小笠原洋一政策推進部長 本年度、下北地区 4 校の保護者を対象に通学状況に関するアンケートを行う。財政負担やニーズを考慮しながら総合的に検討していく。
- ◇佐藤武議員（無所属） 介護報酬改定後の訪問介護の現状は。
▷斎藤健康福祉部長 改定前は訪問介護事業所が市内に 18 カ所あったが、人材確保が難しいなどの理由で 2 事業所が休止、廃止した。介護人材の実態調査を行い、事業所の実情を把握していく。
- ◇井田茂樹議員（自民ク） 医療的ケア児の家族へのレスパイト支援の実績は。
▷斎藤健康福祉部長 昨年 11 月から実施し、24 年度は登録した 2 人のうち 1 人が 1 回 90 分、25 年度は 5 月末時点で、3 人が登録し、うち 1 人が 2 回計 4 時間半利用した。
- ◇浅利竹二郎議員（自民ク） 町内会活動の現状は。
▷山本市長 少子高齢化やライフスタイルの多様化で、14 年度に 64.8%だった加入率は、24 年度は 61.0%と減少傾向にある。役員の固定化やなり手不足、会員数の減少などの問題が生じている。
- ◇佐賀英生議員（市誠ク） 特殊詐欺の現状と傾向は。
▷小笠原洋一政策推進部長 24 年度の市消費生活センターへの相談は 32 件で、ワンクリック詐欺 15 件、架空請求詐欺 11 件など。最近では個人情報聞きだそうとする不審電話の相談が増加している。
- ◇工藤祥子議員（無所属） 森林経営管理制度の進捗（しんちょく）状況は。
▷一戸義則農林水産部長 脇野沢地区で約 3 ㍍の森林整備を実施する。大畑地区では現地調査、むつ地区の 2 カ所で意向調査を行う。調査に時間を要するのが課題なので、進め方を再考していく。
- ◇野中貴健議員（市誠ク） 大畑地区の避難道の検討状況は。
▷山本市長 現在策定を進めている大畑地区未来ビジョンの中で、避難道も検討項目としている。加えて、関根地区の道路についても県と協議しながらバイパス化に向け検討している。

- ◇佐藤弘政議員（市誠ク） コメなどの物価高騰による学校給食への影響はあるか。
▷福山洋司教育部長 防災食育センターが 25 年度に稼働したため一概に比較できないが、4 月納品分の 1 ㍏あたりの米飯価格は、24 年度 660.4 円、25 年度 520 円だった。
- ◇村中浩明議員（陸奥未来） 下北ジオパークビジターセンターの利用状況は。
▷小笠原洋一政策推進部長 21 年度 795 人、22 年度 1912 人、23 年度 1385 人、24 年度 2440 人。地域外からも多く訪れるほか、管内の学校にも活用されている。
- ◇濱田栄子議員（無所属） 下北自然の家を存続させる考えはないか。
▷山本市長 下北の自然の大切さを子どもたちに伝えることが核。屋外体験活動をどう残すかに市教委と力を使いたい。施設については、民間譲渡も含め検討している最中。
- ◇櫻田秀夫議員（公明・自由） 障害者就労支援の課題は何か。
▷斎藤洋一健康福祉部長 就労支援事業所の工賃向上。24 年度の就労継続支援 B 型事業所の工賃の平均は、全国が 2 万 3053 円に対し、青森県は 2 万 979 円、むつ市は 2 万 636 円となっている。
- ◇高橋征志議員（無所属） 内申書が生徒の主体性を阻害する懸念をどう考えるか。
▷阿部謙一教育長 生徒の努力と成長を記入するもので、マイナス面は記入しない。また、校内で基準を設け、複数の目で確認しているため指摘するような心配は全くない。
- ◇中村正志議員（自民ク） E BPM（エビデンス・ベースメント・ポリシー・メイキング）導入の目的は。
▷山本市長 計画の実効性確保や行政資源の有効活用、効果的な政策を継続展開するため、本年度の次期市総合経営計画の策定着手を契機に導入する。



質問中の杉浦議員

佐賀英生議員、六ヶ所村高レベル放射性廃棄物の搬入から 30 年を踏まえ 市長の所感と一步踏み込んだ対応を求めました…しかし、その答弁は…

同議員は六ヶ所村への高レベル放射性廃棄物搬入から 30 年という節目を迎えたことを踏まえ、本市としても中間貯蔵施設を有しており、何らかのアクションを起こすべきとして市長の見解を求めました。

これに対し、答弁に立った斉藤副市長は市としては国の責任のもと放射性核燃料サイクルの確実な実施が進められるものと認識していること、また、現状より踏み込んだスタンスを求めるべきとの意見に

は市の見解としては高レベル放射性廃棄物の最終処分について特段申し上げる立場にないとし、国による核燃料サイクル政策の確実な実施が進められるよう引き続き国や事業者の動向を注視し、今後も必要に応じて各議員の意見を受けながら要請活動や青森県共創会議などさまざまな形で確認をしていきたいと答弁するとどまり、議論は深まりませんでした。

「地域に寄り添い対応を」 市長、下北統合校の整備巡り

市長、下北統合校の整備巡り

むつ市議会
一般質問

むつ市議会は12日、一般質問を行った。大湊高校とむつ工業高校の「下北地区統合校」の校舎改築工事が入札中止となったことを巡り、山本知也市長は県教育委員会に求めることとして「子どもたちや保護者をはじめとした地域の皆さんの不安に、真摯に寄り添って対応してほしい。その一点に尽きる」と述べた。

富岡直哉議員（陸奥未来）の質問に答えた。

2027年4月開校予定の統合校はむつ工の敷地内に新校舎が整備される方針だったが、3月に入札不調となり白紙化。県教委は5月の地元説明会で、むつ工の既存校舎の改修利用案を含めて検討するとしたが、不透明な先行きに反発が強まり、統合自体の撤回を求める声も上がっている。

小笠原洋一政策推進部長は説明会について「市からの要請で開催するのではなく、入札中止となった後、統合校の設置を決定した県教委自身がその責任において、主体的かつ速やかに開催するべきだった」と指摘。

「説明内容についても具体的な整備方針案や全体スケジュールが示されず、地域の皆さんの不安は払拭されるところか、より深まった」と述べた。

10日に県教委などに整備方針案を早期に示すよう求めた山本市長は答弁で「子どもたちが多様な学びの中で夢を実現できるような教育環境の整備に向け、責任を持って取り組んでほしい。市としてもできる限りの協力をしていく」と語った。

その他の主な質問事項

←6/17 デーリー東北 ↑6/13 東奥日報
こちらは佐井村から明るい話題です

佐井

村が補聴器助成開始 高齢者対象

佐井村は認知症予防対策の一環として、本年度から高齢者を対象に補聴器購入費の助成事業をスタートした。「聞こえ」の改善によって生活の質向上を後押しする。

村単独事業として本年度当初予算に50万円を計上した。助成限度額は片耳5万円、両耳なら10万円。申し込みが多ければ補正予算での対応を検討する。日本補聴器販売店協会のまとめによると2024年12月現在、本県では弘前市、東通村など9市町村が補聴器購入に助成している。

一般に加齢に伴い聴力が低下し会話などのコミュニケーションが取りづらくなる

と、家に閉じこもりがちになるとされる。同村の高齢化率は24年2月現在、47・68%と県内で5番目に高い。村外の医療機関から事業化を勧める助言があったという。

村福祉健康課の若山晋司課長は「耳が遠くなるとコミュニケーションの場にも出づらくなる。引きこもっていると認知症が進むことが心配される。（事業実施によって）元気な村にしたい」と話した。

村内で定期的に補聴器に関する相談会を開いている地域商社コメイチの奥本美根子専務は「聞こえづらいというお客さんは増えたと感じる。『欲しいけれど決して安い物でもないから』と諦めている人もいます。助成制度が購入の後押しになる」と期待を寄せた。同社は7月4日に無料相談会を開く。要予約。問い合わせは同社（電話0175-34108）へ。（本間善幸）

海自大湊と共存共栄推進

市基地政策方針策定へ

むつ市議会
一般質問

一般質問

むつ市議会は一般質問最終日の16日、5人が登壇した。海上自衛隊大湊基地との共存共栄を推進するため、「（仮称）市基地政策方針」の策定に本年度着手していると明らかにした。

全国に4カ所ある海自の教育隊誘致について、国などへの要望を検討する考えを示した。

市によると、23年度の大湊基地と市内事業者との契約金額は総額24億8千万円で、24年度の市への関連交付金は総額21億3900万円に上る。隊員約2900人が所属し、地域経済への恩恵は大きい。

山本知也市長は「120年を超える長い年月をかけ、家族としての絆を築いてきた」と強調。「共存共栄の理念の下、まちづくりを進めていく。方向性を明確化する」と述べた。

一方、市側は大湊基地で整備が進む大型弾薬庫の進捗状況について、防衛省から報告を受けている内容を説明。工事に着手済みの2棟は11月末までの完成へ、本体工事を実施中で、新設の4棟は10月末までに実施設計を完了する予定だという。

（佐藤航）

～北方の兵隊さんへ～女学生から慰問文**満州で兵士支えた便り むつの住宅で見つかる**

太平洋戦争中、東京の女学生が満州（現中国東北部）で活動する兵士に送った「慰問文」が、むつ市中央の杉沢セイ子さん（89）宅で見つかった。慰問文は1943年初頭のものともみられ、本土での日常や戦地の兵士を思いやる内容がたっぷられている。戦後 80 年を迎える今年、戦争を伝える記録として当時に思いをはせる手がかりになればと、杉沢さんは慰問文を女学生らが所属した学校に返還する予定だ。（伊藤駿介）

青森市の県立郷土館によると、慰問文は戦地の兵士の士気を高めるための手紙で、学校が子どもたちに受取人を特定せずに書かせる場合が多かったという。

杉沢さんが見つけたのは A 3 サイズほどの 4 枚だ。戦時中、陸軍に召集されて満州に渡った叔父の片谷理吉さん（1916 年生まれ、故

人）が終戦前に除隊して帰郷した際、杉沢さんに手渡していた。

杉沢さんはその後、慰問文を箱にしまい込んで忘れていたが、最近、高齢となり身辺整理をしていたところ発見した。片谷さんから「慰問文を戦地から腹巻きの中に入れて持ち帰ってきた」と聞かされたといい、杉沢さんは「つらい戦地で、本土からの便りはよっぽど大事だったのだろう」と思いやる。

慰問文には差出人として、東京・渋谷区の関東高等女学校（現関東国際高校）の女学生 4 人の名前がある。「北方の兵隊さんへ」と宛てて、「大東亜戦争 2 回目のお正月を迎え、おいしいおもちなどたくさん食べて」「寒さの中でも日夜一生懸命に活躍くださいまして」などと書かれていた。

また、「私たちが心配していたガダルカナル島で、とうとう日本

が勝ったと聞いた」との一文もある。実際には、同島を巡る戦いで日本は敗北し撤退したにもかかわらず、大本営は 43 年 2 月 9 日、撤退ではなく、目標達成による「転進」と発表。国民を欺いていた。

郷土館学芸課の佐藤良宣学芸主幹（55）は 4 枚について、日付を特定できないものの、内容から「43 年の正月から 2 月頃に書かれたものではないか」とみる。その上で、「戦後 80 年がたってこのサイズのものが見つかるのは珍しい。戦時下の子どもたちの日常や思いを知ることができる」と話す。

杉沢さんは今後、慰問文を関東国際高に返すつもりだ。当時の女学生や、その親族の手元に届くのかはわからない。ただ、「戦争を知らない人たちが増えている中、今の高校生たちが戦争について考える一つのきっかけになるのかもしれない」と思いを巡らせている。



杉沢さん宅で見つかった慰問文（4日、むつ市で）

歴史を胸に、祈る 沖縄、慰霊の日 つないでくれた命、大切に 沖縄慰霊の日

日本本土最大の地上戦となり、日米合わせて20万人が犠牲になった沖縄戦。その戦没者らを悼む戦後8年の「慰霊の日」を迎えた沖縄に、真夏の日差しが降り注いだ。沖縄県糸満市では沖縄全戦没者追悼式があり、伊良波小6年生の城間一步輝（いぶき）さん（写真左）が「おばあちゃんの歌」を朗読した。

**「おばあちゃんの歌」****城間一步輝（いぶき）**

毎年、ぼくと弟は慰霊の日におばあちゃんの家に行って仏壇に手を合わせウートーをする

一年に一度だけ
おばあちゃんが歌う
「空しゅう警報聞こえてきたら
今はぼくたち小さいから
大人の言うことよく聞いて
あわてないで さわがないで 落ち着いて
入って いましよう防空壕（ごう）」
五歳の時に習ったのに
八十年後の今でも覚えている
笑顔で歌っているから
楽しい歌だと思っていた
ぼくは五歳の時に習った歌なんて覚えていない
ビデオの中のぼくはあんなに楽しそうに踊りながら歌っているのに

一年に一度だけ
おばあちゃんが歌う
「うんじゅん わんにん 艦砲ぬ くえーぬく
さー」
泣きながら歌っているから悲しい歌だと分かって
いた
歌った後に
「あの戦の時に死んでおけば良かった」
と言うからぼくも泣きたくなった
沖縄戦の激しい艦砲射撃でケガをして生き残った
人のことを
「艦砲射撃の食べ残し」
と言うことを知って悲しくなった
おばあちゃんの家族は
戦争が終わっていることも知らず
防空壕に隠れていた

戦車に乗ったアメリカ兵に「デテコイ」と言われたが
戦車でひき殺されると思い出て行かなかった
手榴弾（しゅりゅうだん）を壕の中に投げられ
おばあちゃんは左の太ももに大けがをした
うじがわいて何度も皮がはがれるから
アメリカ軍の病院で
けがをしていない右の太ももの皮をはいで
皮ふ移植をして何とか助かった
でも、大きな傷あとが残った
傷のことを誰にも言えず
先生に叱られても
傷が見える体育着に着替えることが出来ず
学生時代は苦しんでいた

五歳のおばあちゃんが防空壕での歌を歌い
「艦砲射撃の食べ残し」と言われても
生きてくれて本当に良かったと思った
おばあちゃんに
生きていてくれて本当にありがとうと伝えようと
両手でぼくのほっぺをさわって
「生き延びたくとう ぬちぬ ちるがたん」
生き延びたから 命がつながったんだね
とおばあちゃんと言った

八十年前の戦争で
おばあちゃんは心と体に大きな傷を負った
その傷は何十年経っても消えない
人の命を奪い苦しめる戦争を二度と起こさない
ように
おばあちゃんから聞いた戦争の話を伝え続けて
いく
おばあちゃんが繋（つな）いでくれた命を大切に
にして
一生懸命に生きていく

中間貯蔵施設の稼働決断

新時代の行方

宮下県政任期折り返し

「20年以上にわたる取り組みの一つの到達点だ」。昨年8月、青森市で使用済み核燃料中間貯蔵施設の安全協定調印式後、事業者のリサイクル燃料貯蔵（RFS）や立地するむつ市のトップらと会見した宮下宗一郎知事は感慨深げだった。父順一郎氏の急逝で市政のバトンを引き継いだのは、RFSが原子力規制委員会に新規制基準適合の審査を申請した2014年。それから10年余り。市長から知事に転身を遂げ、地元の長年の懸念だった施設稼働にGOサインを出した。むつで市長を3期目途中まで務めた。原子力関連施設が立地する最前線で国や事業者と対峙してきた経験は政治家としての強みだ。安全最優先の県政の系譜を継承しつつ、時に毅然とした態度で事業者から地域振興策を引き出す。

③ 原子力行政

前県政とスタンスに違い



中間貯蔵施設に向けて運び出される使用済み燃料が入ったキャスク＝2024年9月、むつ市

設が立地する最前線で国や事業者と対峙してきた経験は政治家としての強みだ。安全最優先の県政の系譜を継承しつつ、時に毅然とした態度で事業者から地域振興策を引き出す。

市長時代には中間貯蔵施設に課す「核燃新税」を導入。知事に就任すると早速、原子力施設に県が独自課税する「核燃料物質等取扱税（核燃税）」の引き上げをまとめて見せた。県の税収

は28年度までの5年間の総額で約280億円増加。単純計算で年間50億円以上となり、事業費約40億円超を要した全国初の給食費無償化を実現するために欠かせない財源となった。

県と市が05年に出資元の東京電力や日本原子力発電と立地協定を結んだ中間貯蔵施設は、両社の原発から出た使用済み燃料を再処理するまでの間、貯蔵管理する。核燃料サイクルの一环に位置付けられ、最長50年の貯蔵期間後に搬出される。

立地協定に署名したのは三村申吾前知事。国や事業者とのやり取りでは、サイクルの中心となる再処理事業が進展していない状況で、先行して中間貯蔵が始まることに慎重な姿勢を見せてきた。

再処理事業が確立されなければ、貯蔵期間満了となった後に行き場を失う恐れがある。中間貯蔵よりも前に再処理を動かす「整合性」

を重視した。

「搬出先の懸念が一番大きかった。これが一定程度、明確化されたのが判断の大きな要素になった」。昨年7月、安全協定締結を表明した宮下知事は搬出先について、国から事前に再処理工場（六ヶ所村）を想定していると従来より踏み込んだ見解を得たのを理由に挙げた。

前知事時代からの「課題」には「再処理工場の操業開始を前提と捉えるものではない。時間軸の中で整理される」と説明。再処理工場が完工すれば整合性は保たれ、両施設の稼働開始が同時期である必要はないとして決着をつけた。

県の原子力行政はどう変わったのか。ある立地自治体の関係者は今回の判断に変化を読み取る。

「三村県政だったら、中間貯蔵施設がいつ稼働できていたか分からない。早期に事業を始められたのは宮下知事だからだろう」

宮下県政、折り返し地点、功罪いろいろありますが…
むつ中間貯蔵施設操業に関しては三村県政時代の枠組みに合理性を感じます

脇野沢勤労者福祉協議会 第30回緑化記念植樹祭が開催されました

1993年より続いている脇野沢勤労者福祉協議会による植樹祭が6月8日、むつ市脇野沢地区愛宕山公園などで行われました。本年は30回目の節目でもあり、むつ市民以外にも大間町からも参加者がありました。この植樹祭は連合下北地域協議会の社会貢献活動の一環として、当時の地元営林署の全面的な支援のもとにスタートしたものです。その後はろうきん・全

労済の活動を通じて地域住民の福祉活動を充実させる目的で設立された勤労者福祉協議会が主体とが旧脇野沢村の大きな行事の一つとして

当日は好天にも恵まれ、地域住民の憩いの場でもある愛宕山公園などにツツジの苗木を20本程度植樹しました。行事終了後は参加者全員による恒例の懇親会も行われ、大いに賑わいました。



むつ市が誇る郷土の画家・菊池時男さんの個展が開催されました

6月12日から15日までむつ市図書館で『下北ジオパーク再認定記念・下北130景』と銘打った作品展が開催され、主に郷土の名所旧跡の水彩画が会場狭しと展示され、訪れた多くの市民を魅了していました。

菊池時男さんは、むつ市を拠点に活動する画家であり、版画家としても知られています。岩手県遠野市出身で、かつてはJR大湊駅に勤務しながら、20代前半から油絵・版画・水彩画など多彩な表現に取り組んできました。氏の作品は、自然や旅先の風景をテーマにしたものが多く、特に2017年以降に訪れたエストニア・タリン、南フランス、スペイン・アンダルシアなどのヨーロッパの風景を描いたシリーズ「ヨーロッパ紀行～風

と光の中で～」は、光と空気感、歴史ある街並みを繊細に表現しています。

また、地域では「ジオ版画クラブ」の代表としても活動しており、下北ジオパークをテーマにした作品制作や、地元の小学生への版画指導など、地域文化の発信と教育にも力を注いでいます。

さらに、菊池さんは日本最大級の公募展「国展」を主催する国画会の会員でもあり、「春のかたち」シリーズなど、毎年大作を出展し続けている実力派です。彫刻刀で板を削って凹凸をつける独自の技法も特徴的で、絵画と彫刻の中間のような立体感ある作品世界を築いています。

◆下北ジオパーク再認定記念下北130景 菊池時男展 12～15日、むつ市立図書館で開かれた一写真。

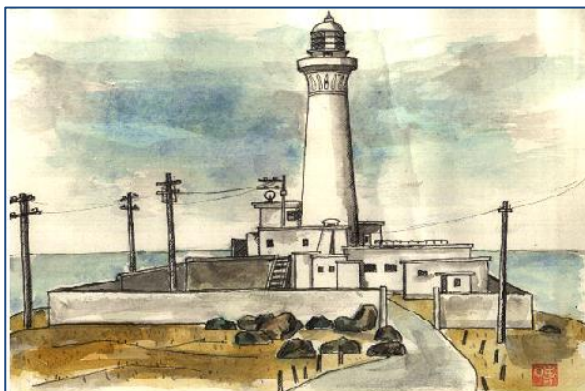
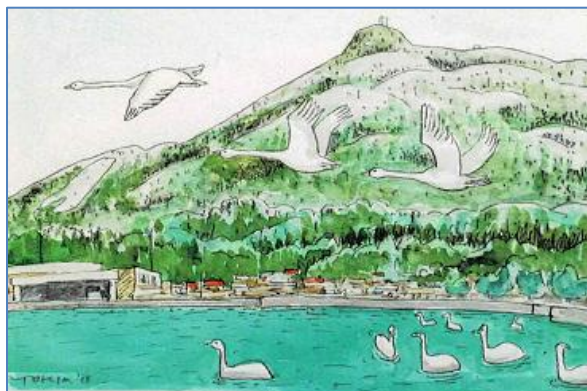
むつ市在住で国画会会員の菊池時男さん(73)が、50代からこの20年余に描



きたためた油彩2点を含む小品130点を展示。下北ジオパークの2回目の日本ジオパーク再認定を記念し企画した。

作品はジオパークとなっている地域の自然風景にとどまらず、変わりゆく街並みや祭り、歴史・風俗まで古里の表情を優しいタッチで描いた。

「むつ下北は海、山、川に囲まれ、バリエーション豊かな表情を見せてくれる土地。どの作品もあまり考えずに素直に描くことができた」と口元を緩ませた菊池さん。「地域の魅力をあらためて感じていただければ」と話した。



6/17 東奥日報

次回号に左記のような菊池さんのふるさと風景水彩画を特集させていただきますので乞う、ご期待を！

(事務局：栗橋)

北部王家（きたべおうけ）、その名前を聞いたことがおありでしょうか。室町時代にむつ市周辺に存在したとされる、南朝の皇族の血を引く一族です。後村上天皇の甥・良尹（ながただ）王が、根城南部氏の支援を受けて田名部地方の領主として迎えられたことに始まります。「蠣崎蔵人の乱」で5代で実質、滅びたとされています。この一族の物語は『東北太平記』という軍記物語にも記されており、南北朝時代の余韻を色濃く残す地域史的一幕として、今も語り継がれています。

〔森勇男氏著「下北伝説の旅」より〕

北部王家の歴史を刻む錦帯城跡地（むつ市川内町）



《田村麻呂から北部王まで》

坂上田村麻呂が鬼伏（脇野沢）で安達小連（あだちのこむらじ）の娘に生ませた三つの子の長女・名部子（鍋子）は、安達小佐麻呂と半島の中央、大鍋平（むつ市大平）にあった。霊場恐山を開いて住民の教化に努め、北部（下北）の長として370年続いた。その18代安達五郎行清は豊富な資源に恵まれたが、酒色にふけておごり高ぶり、住民の恨みを買って文治5年（1189）正月15日、館を焼かれて鶴崎の湊（むつ城ヶ沢）から行方不明になった。

北部の長・安連行清が滅んで間もなく鎮守府将軍陸奥守兼出羽守押領使・従四位上藤原泰衡朝臣も源頼朝に亡ぼされた。その後、北部の王は決まらないままだったが建仁3（1203）年5月になって征夷大將軍頼朝の命により地頭となってきたのが工藤大和守である。

工藤大和守は曾我兄弟が富士の裾野で仇を討った工藤祐経の子である。頼朝の信望厚かった祐経の子も祐経亡きあとは頼朝に嫌われ、地頭の名のもとに北部に送られたのであった。北部の住民はこの地頭の命に従わず、翌年3月この工藤大和守を追い払って主のない地方になった。

そこへ承元2年（1208）秋、泉小次郎親衡なるものが信濃から逃れてきて、大勇をもって民衆を叩き、自分から地頭を称して北部の

王となった。この泉親衡は歴史の陰で活躍した人物である。

頼朝が夫人政子の妹の供養に行った締りに落馬し、思いのほかの大怪我となり、正治元年（1199）53歳で亡くなった。長子頼家は僅か19歳で二代将軍を継ぐ。ここに北条時政の策略がクモの糸のように絡みつき、頼家は病気を理由に翌年、弟の千幡（実朝）に將軍の座を渡さざるを得なかった。

頼家は時政の専断を怒り、妻の父と組んで時政を除こうとして、逆に修繕寺に幽閉されてしまう。頼家は温泉の湯口から漆を流され、全身がかぶれて見るかげもなく元久元年（1204）7月18日の夜、湯殿で時政の手の者に殺される。

3代將軍となった実朝は鎌倉の鶴岡八幡宮で頼家の長子公暁に殺され、鎌倉幕府の正統は僅か3代で亡んでしまう。

頼家にはもう一人の子、千寿丸がいた。泉親衡はこの千寿丸を奉じて源氏の再興を企てる。自分の出身地信濃をはじめ、越後、下総の武將約300余りで北條を攻める計画を立てるが、これが事前に漏れて千寿丸は自刃して果てた。謀將泉親衡は北條の手を逃れ、以来、歴史上では行方不明の人物となっている。

「東北太平記」によると、その泉親衡が下北半島に流れ着き自ら地頭を称したとある。

親衡ははじめ岩屋（東通村）の

海岸に漂着、エゾの首領丹突一派を亡ぼし、やがて半島の中央に進んで安東太郎国衛を名乗った。北州の桂麻呂の娘を娶って、一男一女を設ける。その後、国衛の子孫は5代に渡って北部の地頭として栄えた。2代盛親のときに城ヶ沢（むつ市）に、鶴崎天台山順法寺城を築いたといわれる。

鎌倉時代に下北半島は糠部郡宇曽利郷（ぬかのごおりうそりごう）と呼ばれていた。時が移り、南北朝時の正平2年（1347）、押領主南部信政は吉野宮の後村上天皇に参内、大塔宮護良親王の遺児・八幡丸を「陸奥国北階上郡の王としたい旨」奏上した。後村上天皇は大いに喜んで直ちに八幡丸を召され、加冠の上、正三位民部卿に任じられ、源良尹王（みなもとのながただおう）として陸奥北部王に封じられた。

信政は吉野を出立、生国甲斐に暫くとどまり、9月に奥州津軽花輪城に至った。目代として半島にあった武日修理太夫と赤星五郎の置名を呼び、北部（半島）の鶴崎天台山順法寺城を大改造して良尹王を迎えることにした。

翌正平3年4月、西沢右近光広は精兵一千余人を仕立てて皇孫の供をし、津軽平館から対岸の鬼沢（脇野沢）に着き、海岸伝いに順法寺城に入った。

次回号に続きます